

2. 全死因における死亡の状況

(1) 全国の死亡の状況の年次推移

平成 22 年の全国の年齢調整死亡率(人口 10 万対、以下同じ。)は、男 544.3、女 274.9 である。平成 17 年と比較すると、男は 48.9 ポイント、女は 23.7 ポイント低下している。男女とも昭和 22 年以降低下傾向は続いている(図1)。

また、粗死亡率(人口 10 万対、以下同じ。)をみると、男女とも昭和 30 年代から 50 年代までは、ほぼ横ばいあるいは若干の低下となっていたが、60 年代に入ってから上昇傾向が続いている。

年齢調整死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。(図2)

図1 年齢調整死亡率の年次推移

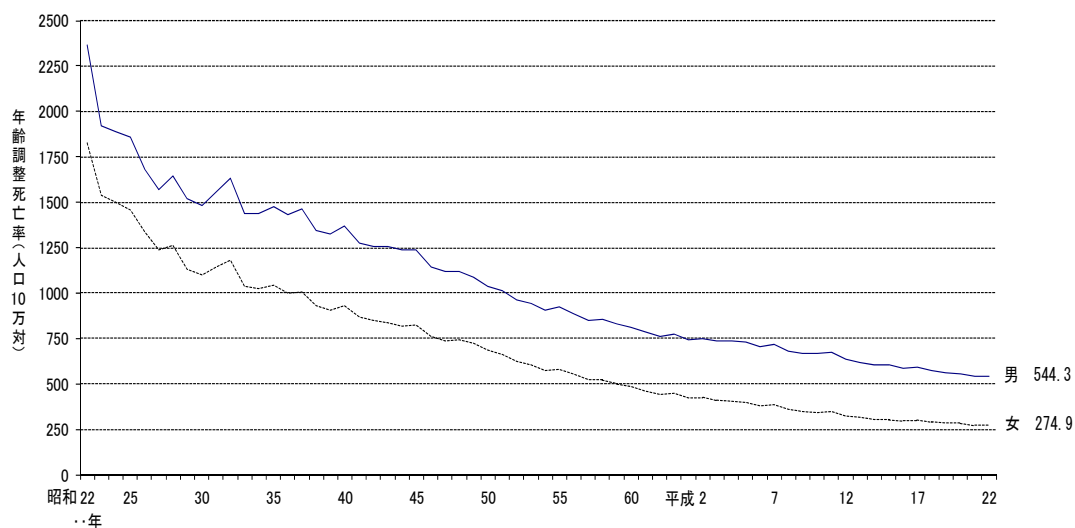
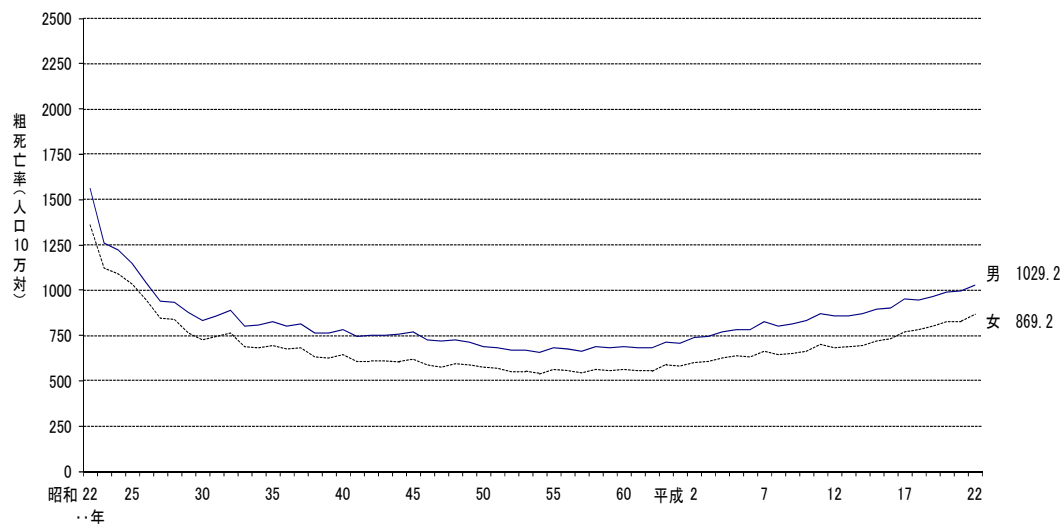


図2 粗死亡率の年次推移



(2) 都道府県別にみた死亡の状況

平成22年の男の年齢調整死亡率を都道府県別にみると、低い都道府県は長野、滋賀、福井、熊本、京都等となっており、高い都道府県は青森、秋田、岩手、和歌山、大阪等となっている(図3-1)。

粗死亡率を都道府県別にみると、低い都道府県は沖縄、神奈川、埼玉、滋賀、愛知等となっており、高い都道府県は秋田、高知、島根、山口、青森等となっている(図3-2)。

図3-1 都道府県別にみた男の年齢調整死亡率 —平成22年—

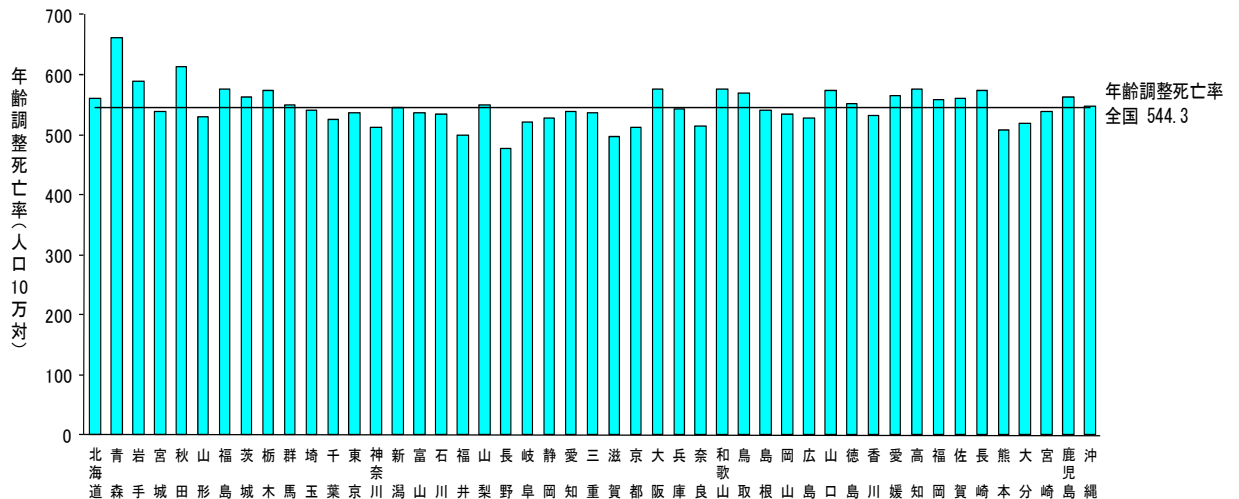
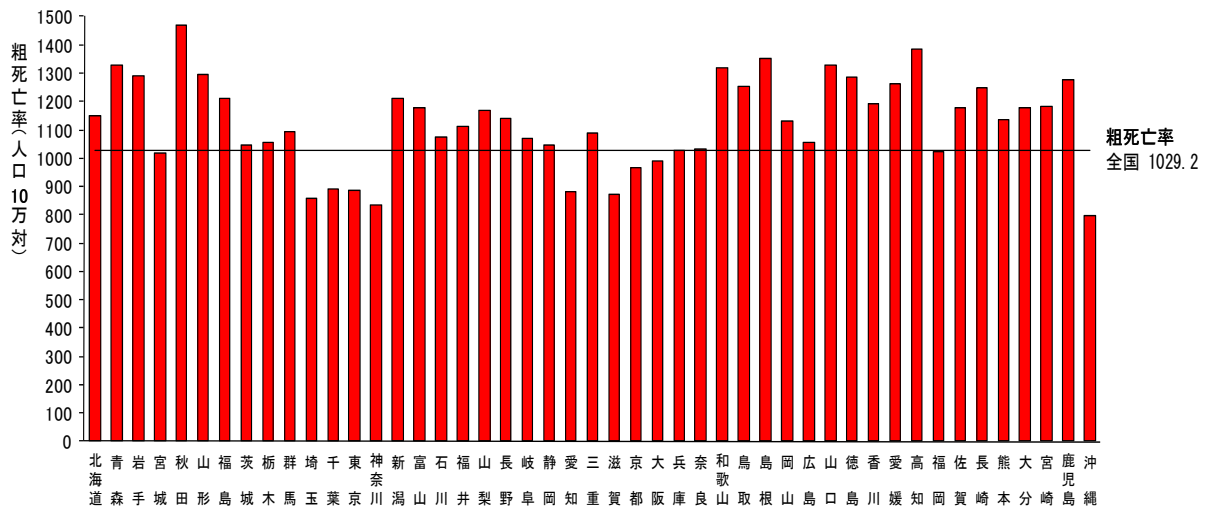


図3-2 都道府県別にみた男の粗死亡率 —平成22年—



女の年齢調整死亡率を都道府県別にみると、低い都道府県は長野、新潟、島根、福井、大分等となっており、高い都道府県は青森、栃木、和歌山、大阪、茨城等となっている(図3-3)。

粗死亡率を都道府県別にみると、低い都道府県は沖縄、神奈川、埼玉、愛知、東京等となっており、高い都道府県は島根、高知、秋田、山口、山形等となっている(図3-4)。

図3-3 都道府県別にみた女の年齢調整死亡率 —平成22年—

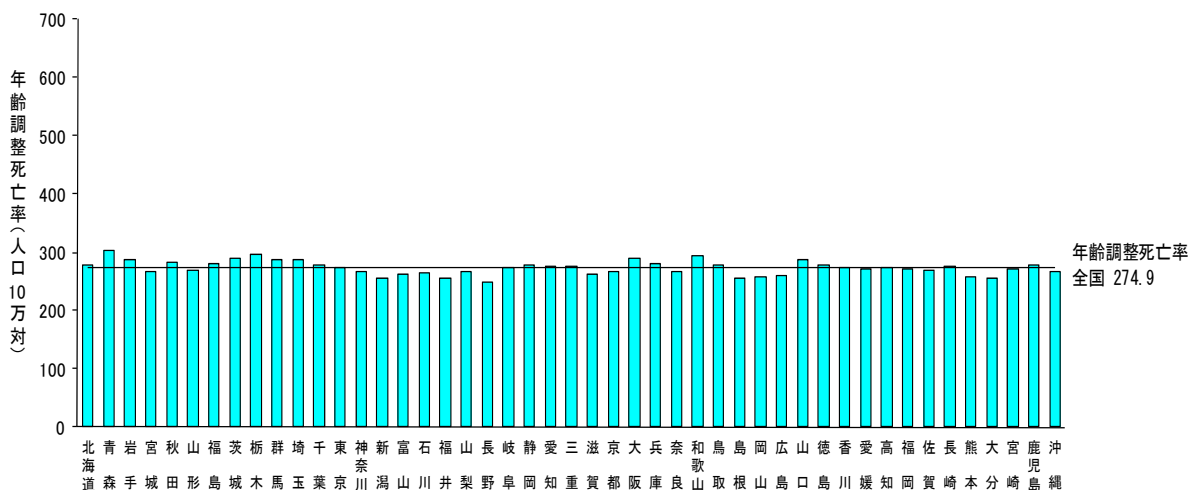
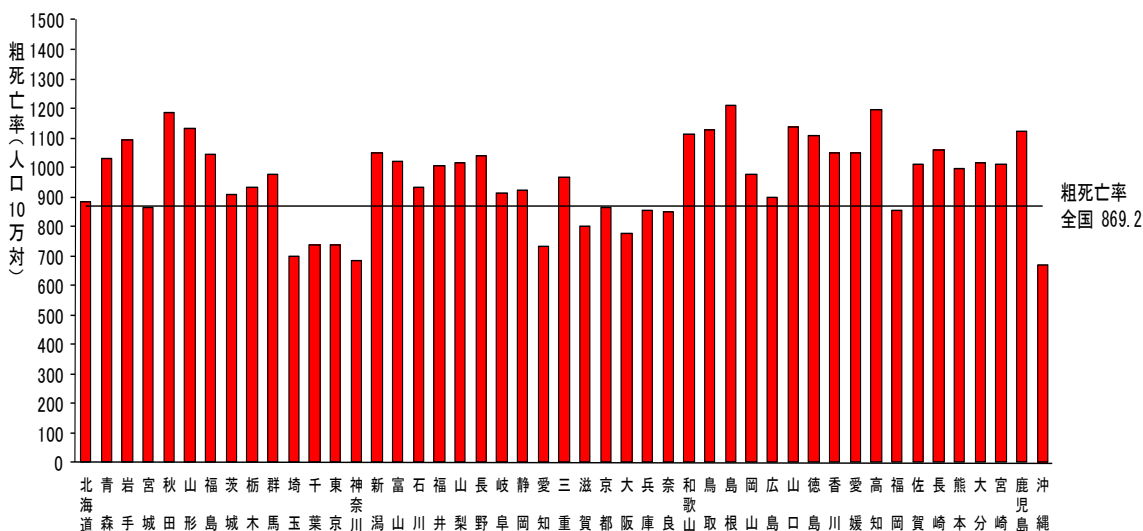


図3-4 都道府県別にみた女の粗死亡率 —平成22年—



(3) 都道府県別にみた死亡の状況の年次比較

平成17年と22年の年齢調整死亡率を比較すると、男では全都道府県で、女では鳥取を除く都道府県で低下しているが、都道府県別の傾向に大きな変化はなく、男は長野が両年とも最も低く、青森は両年とも最も高くなっている。また、女は長野、新潟、島根が両年とも低く、青森、栃木、大阪、和歌山が両年とも高くなっている。(図4-1、図4-2)

図4-1 都道府県別にみた男の年齢調整死亡率
—平成17年・22年—

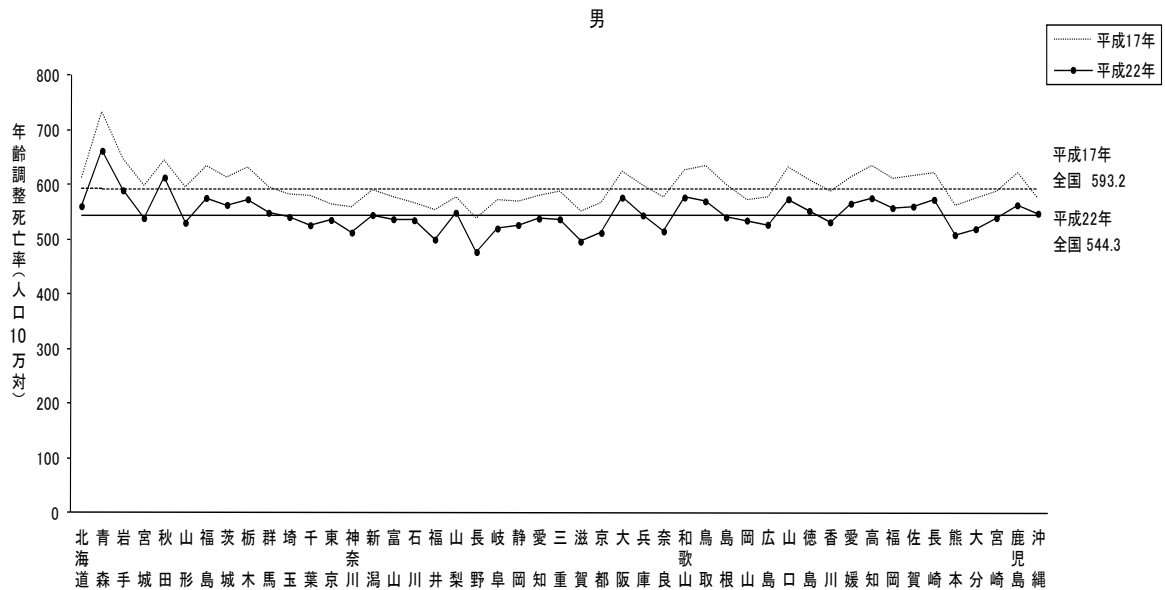
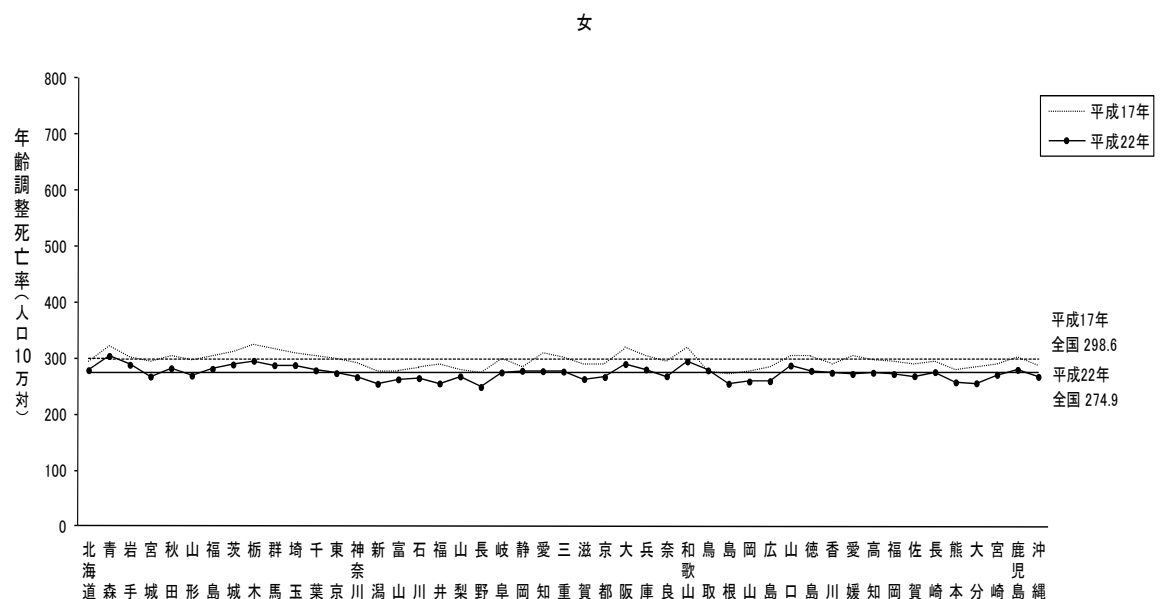


図4-2 都道府県別にみた女の年齢調整死亡率
—平成17年・22年—

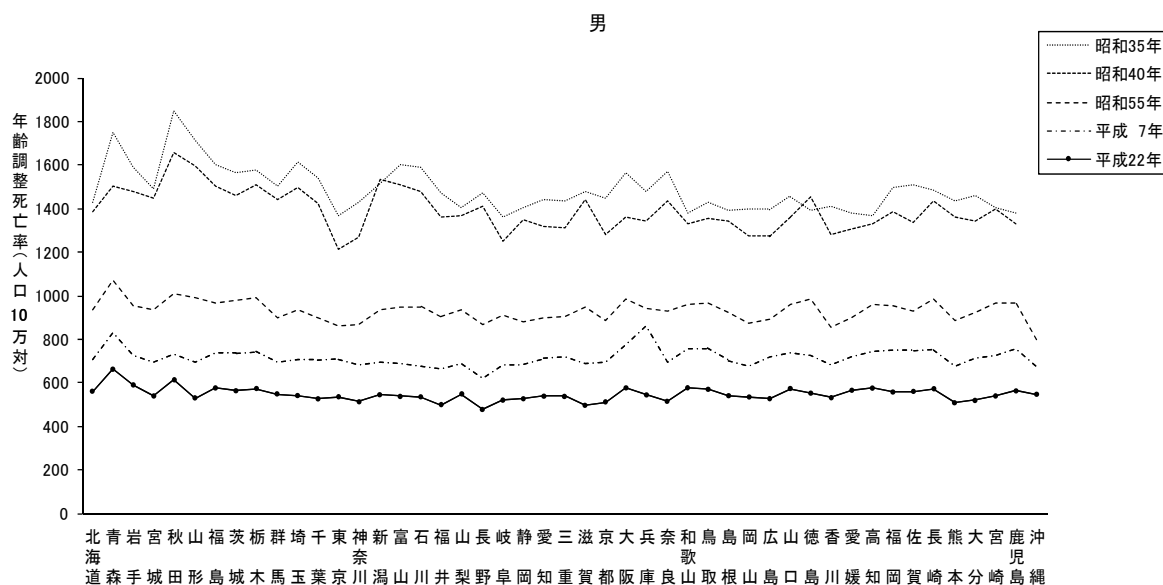


都道府県別年齢調整死亡率を長期的な年次別にみると、昭和35年、40年は男女とも秋田、昭和55年は男では青森、女では栃木、平成7年は阪神・淡路大震災の影響により男女とも兵庫、平成22年は男女とも青森が最も高くなっている。

また、男女とも昭和35年、40年には西日本に年齢調整死亡率の低い都道府県が多く、東日本に高い都道府県が多くなっていたが、近年は年齢調整死亡率の全国的な低下にともなって、地域差は小さくなってきている。(図5-1、図5-2)

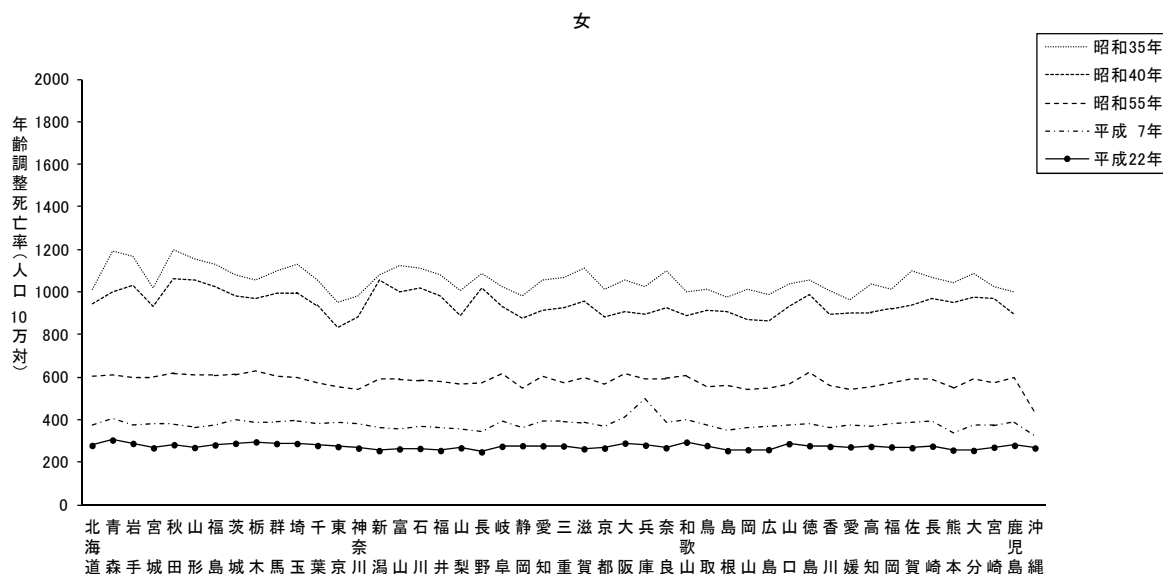
その理由の一つとして、東高西低傾向のある脳血管疾患の死亡率が、全国的に大幅に低下し、差が小さくなってきていることがあげられる。

図5-1 都道府県別にみた男の年齢調整死亡率の年次比較



注: 昭和35年、40年は沖縄を含まない。

図5-2 都道府県別にみた女の年齢調整死亡率の年次比較



注: 昭和35年、40年は沖縄を含まない。